

# 学童保育所利用申込受付

横越町学童保育所は、平成17年度から(財)新潟市福祉公社へ管理運営が委託され、新潟市ひまわりクラブとなり、名称は「横越ひまわりクラブ」になります。仕事などの理由で、児童が帰宅する時に家族が不在であり、かつ近くに保護する方がいない、おむね小学1〜3年生までの児童を対象に募集します。

## ●受付期間

平成16年12月13日(月)  
〜12月24日(金)

## ●必要書類

- ①新潟市ひまわりクラブ入会許可申請書(児童1人につき1通)
- ②保護者の就労証明(児童1人につき両親とも各1通)

## ●概要

- 場 所 横越町児童館(中学校となり)
- 開設日時 学校の平常授業期間(放課後から午後6時30分まで)。土曜日、臨時休校日、春・夏・冬休み期間(午前7時30分から午後6時30分まで)。但し、日曜日、祝日及び年末年始は閉館。
- 費用負担
- 利用料 月額6,900円(平成16年度現在)

## 利用料の減免区分(平成16年度現在)

区分	減免基準	月額利用料
生活保護世帯	全額免除	0円
平成16年度町民税非課税世帯	2/3免除	2,300円
平成16年度町民税所得割額5,000円未満世帯	1/2免除	3,450円
平成16年度町民税所得割額5,000円以上20万円未満世帯	1/3免除	4,600円
平成16年度町民税所得割額20万円以上世帯	—	6,900円

但し、平成16年度(平成15年分所得)の世帯の町民税所得割額(両親の合計額)が20万円未満の世帯は、申請により減免が適用されます。

②実費徴収金  
おやつ代、行事費の実費を別途徴収します。

# 短歌

(公募作品)

さつと来し小雨はあがり虹うすく白石城は天に浮き立つ  
熊よけに取り付けし鐘を打鳴らし紅葉映ゆる登山道を行く  
我が道は如何に厳しく響くとも挫けず進む頑気を友に  
荒れし庭季節はずれのサルビヤが真紅に咲けり秋の陽あびて  
畑を打つ鉄を休めて腰伸ばせば明日の日和を告ぐる夕映え  
山宿の露天風呂に入り安らげばかすかに聞こゆるせせらぎの音  
穴掘って埋める落梨山なして失意の妻は一日無口に  
いく度か寄せる地震の大きさに只うろろとなすすべもなし  
細やかに皮膚を振るはせ虹を追ふ牝牛の背は日に輝よへり  
子供等のハッピー鈴巻笛太鼓ワッショイ〜と湧く村祭り  
色濃ゆき桔梗涼しく一株が小さく咲きて秋はききにけり  
山茶花の花啄みし鶴の番いが我を見つつ飛び去る  
夕風の浜に落日背を受けて釣り人一人竿をたらしおり  
キルティング曲がらぬように気を付けて一針一針進ませてゆく

当センターでは、宿泊泊(定員200人)のほか、テント泊(定員150人)、日帰り研修(午前9時〜午後4時)が可能です。

- 受付場所 役場健康推進課(書類は、健康推進課及び学童保育所にあります)
- 問い合わせ 健康推進課 社会福祉係 385-2111

## 県立青少年研修センター 使用申込予約開始

平成17年4月1日から18年3月31日までの利用申込予約を受け付けています。

- 必要経費(平成16年度の場合)  
食費1,800円(朝食500円、昼食600円、夕食700円)、シート・枕カバーのクリーニング代180円。
- 受付時間 午前9時〜午後5時

## 10月資源ごみ収集実績

空きびん	5.8 t
空き缶	3.7 t
古紙	41.0 t
ペットボトル(拠点回収分)	1.9 t
プラスチック包装(資源化量)	6.7 t
合計	59.1 t

上町	中村チヨイ
川根町	菊地 隆夫
川根町	阿部 頑進
沢海	田辺タケノ
沢海	清水 雅美
沢海	渋谷 ウタ
木津	坪谷 雅博
木津	今井 里舟
木津	保科 蘭山
小杉	小田トキイ
小杉	中川マツノ
二本木	杉崎 正弘
新潟市	青木 彬樹
新潟市	村山 朱美

◆申込・問い合わせ 県立青少年研修センター(西蒲原郡巻町大字越前浜597-1)  
☎0256-777-2111  
電話でお申し込みください。

## 横越町の歩んだ道を覗いてみよう

# 横越歴史探訪10



## かつては苦労が多かった米作り 今や需要高まる横越町の農産物

### 重労働だった昔の米作り

戦後に農業の機械化が進むまでは、牛や馬を使って田畑を耕し、田植えでは腰をかがめて苗を一束一束植え、稲刈りでは、鎌で刈ってはさかきで米を自然に乾燥しました。現在と比べ当時の米作りは、大変な重労働でした。はさかきのための木々(はさ木)は、以前はよく見られた風景でしたが、今では乾燥機による米の乾燥がほとんど、はさ木を見ることはほとんどなくなりました。

### 副業も盛んに

かつては農家の副業も盛んに行われていました。戦前の横越の産物は、養蚕が盛



明治末期の桑畑(沢海)の様子

亀田郷一帯は土地の高さが低いため、以前は水はけが悪く、常に水害の危険にさらされ、洪水時には人命や農作物などに大きな被害が生じることも度々ありました。大正・昭和に行われた阿賀野川改修、満願寺開門建設、阿賀用水路・小阿賀用水路の整備、土地改良事業などによって、現在では多くの農作物が生産される豊かな地域へと変わりました。

かつて阿賀野川の堤外地には、たくさんの萱や葦が茂っていました。田仕事が終わった11月下旬から12月初旬にかけて萱刈りが行われ、生活の重要な財源になっていました。萱は一般的にかまどのたき付け用に使い、良質なものは背負って売りに行きました。戦後になると、米作のほか副業として養鶏、酪農、スイカ栽培が積極的に推進され、特に横越ス

## 都市近郊型農業へ

阿賀野川が育んでくれた肥沃な大地を活かし、現在では米のほか、長いも、キャベツ、ゴボウ、スイートコーン、チューリップ球根、切り花、梨、ぶどう、きのこ、酪農、養豚など、多くの農産物が生産されています。近年、地元でとれたものを地元で消費するという「地産地消」が広まり、新鮮でおいしい横越産農産物を直接買いに来る方も増えています。

### ○米

戦後農業の機械化が進み、会社等に勤務のかたわら、休日に農業を行う兼業農家が増加。平成9年には、集落営農による経営の安定と生産性の向上、コスト削減を目指して、亀田郷みなみ農業協同組合によって小杉地区にカントリイエレベーターが完成しました。

### ○チューリップ

町内でのチューリップの球根は、年間約1,200万球、70種類ほどが生産されており、県下第2位の出荷量を占める大生産地です。近頃は八重咲、百合咲などがあり、色も形も様々です。

4月中旬から5月上旬には、色とりどりの花が咲き誇り、毎年4月下旬にはチューリップフェアが

### ○梨

当町には梨をはじめぶどうなど色んな果樹があり、梨は町の代表的な特産品です。平成13年、二本木地区に最先端選果センターを装備した梨選果場が完成し、全国へ向けておいしい梨を出荷しています。また、8月から12月まで県道沿いに梨の直売所が並び、大きな賑わいを見せています。

### ○長いも

横越町自慢の長いもの生産量は年間約500t、県内多数の産地となっています。5月に種芋を植え付け、11月から4月頃に収穫します。大きいものは長さ1m以上、重さ2kg以上もあり、ていねいに扱わないと折れてしまうため、収穫作業は慎重に行われます。横越町は古くから長いもの名産地として知られており、江戸時代には殿様への献上品にも用いられたと言われています。



昭和25年頃、宗賢寺裏の開田でワクを使った田植え



ハサギかけ(昭和30年代)